

<実践報告>

## 教職課程履修中の学生を対象とした「社会科」のイメージ調査

糸 数 哲<sup>※</sup>

### An Inquiry into Various Images That Pre-service Teacher Trainees Hold of Social Studies

Tetsushi ITOKAZU<sup>※</sup>

#### 要 約

社会科, 保健体育科, 英語科のいずれかの教員免許取得希望者(4年次)を対象に, 「社会科」の教科や授業のイメージ調査を行った結果, 社会科は「暗記科目」とのイメージが強い教科であることが分かった。創意工夫によって「思考力・判断力・表現力等」を養うための学習活動を十分に取り入れていくことで「暗記科目」とのマイナスイメージを払拭することができると思われる。そのためには, 教師が今以上に授業実践力を向上させ, 育成を目指す3つの資質・能力をバランスよく育成する授業展開をしていく必要がある。

キーワード: 社会科, 暗記科目, 機械的作業, 創意工夫

#### 1 はじめに

現行(平成29・30年改訂)の学習指導要領(以下, 現行学習指導要領)では, 教育課程全体を通して育成すべき資質・能力の三つの柱を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」としており, すべての教科等の目標および内容がこれら三つの柱で整理されている。なお, 中学校学習指導要領は令和3(2021)年度から全面的に実施されているが, 高等学校学習指導要領は令和4(2022)年度から年次進行で実施され, 令和6(2024)年度に完成年度を迎える。現行学習指導要領で示されている「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の育成は, 旧(平成20・21年改訂)学習指導要領(以下, 旧学習指導要領)でも求められており, 「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること」とされていたことから, 現在大学4年次の学生も「知識・

技能」だけでなく, 「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す教育課程を受けてきた。

現行学習指導要領と同様, 旧学習指導要領でも「思考力・判断力・表現力等」の育成が求められていたものの, 中学校社会科, 高等学校地理歴史科および公民科においては, 「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分である」「課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていない」ことが指摘されており, 「課題を追究したり解決したりする活動を充実し, 知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力」等の「国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育ていく」ことが求められている(中央教育審議会, 2016)。このような社会科教育の課題の原因

<sup>※</sup>経法商学部経法商学科 (Faculty of Law, Economics and Management, Department of Law, Economics and Management)

について、例えば「高等学校地理歴史科の歴史系科目では、教材で扱われる用語が膨大になっている」ことが挙げられており、「科目のねらいを実現するために必要な概念等に関する知識を明確化するなどして整理すること」が求められている（中央教育審議会，2016）。

中学校や高等学校の現場では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて社会科の授業改善に取り組んでいると思われるが、社会科は「暗記科目」と表現されることがあり、「知識偏重」教科と認識される傾向にあった（少なくとも、筆者の中学・高校時代は「暗記科目」と表現されていた）。教員免許取得を希望する学生（ここでは、「社会科」教員を目指す学生）自身が受けてきた授業は、自らが授業を行う際の授業スタイルや授業計画にも少なからず影響を与える可能性がある。そのため、現大学生の「社会科」のイメージを把握しておくことで、今後の社会科教員の養成（授業実践指導など）に活かしていくことができる。そこで本稿では、教職課程履修中の学生にアンケートを行い、学生が持つ「社会科」の授業のイメージについて調査した。

## 2 アンケートの概要および結果

アンケート調査は、2018年10月19日、2019年11月15日、2020年11月6日、2021年11月12日および2022年11月11日に行い、いずれの調査も、教育実践に関する科目の「教職実践演習」を受講している4年次学生を対象とした。アンケート回答者は合計115名で、1回のアンケートで20名～26名分の回答を得た。アンケートに回答した学生の希望免許種は、社会科、保健体育科、または英語科のいずれかとなっており、回答者には社会科以外の教員免許取得希望学生も含まれている。

アンケート内容は下記の通りで、回答は自由記述とした。なお、2018年のアンケートでは、Q1の質問文の「社会科（地理・歴史・公民）」を「社会科」としていた。また、Q2の質問文の「中学校・高等学校で受けた「地理」「歴史」「公民」の授業」を「小学校～高

等学校で受けた「社会科」の授業」としていた。

Q1. あなたが持っている「社会科（地理・歴史・公民）」という教科・科目の印象について教えてください。

Q2. あなたが中学校・高等学校で受けた「地理」「歴史」「公民」の授業で、記憶に残っている授業について教えてください。

Q1およびQ2に対する回答はさまざまであったが、複数の学生が挙げていた回答に、社会科のマイナスイメージとして「暗記科目」「教師が一方的に話している」「眠い・眠くなる」「板書事項が多い」などがあった。図1～図4にそれぞれ「板書事項が多い」「教師が一方的に話している」「眠い・眠くなる」「暗記科目」と回答した学生の割合を示す。「板書事項が多い」が14.8%（図1）、「教師が一方的に話している」「眠い・眠くなる」が20.0%（図2、図3）であったのに対し、「暗記科目」と回答した学生は63.5%（図4）となっており、回答した学生の3分の2近くが社会科は暗記科目とのイメージを持っていた。特に歴史分野に対して「暗記科目」のイメージを持つ学生が多かった。

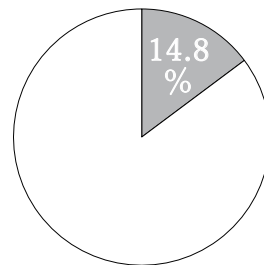


図1 「板書事項が多い」と回答した割合

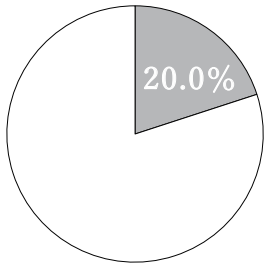


図2 「教師が一方向的に話している」と回答した割合

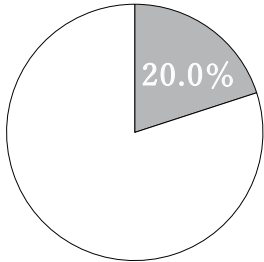


図3 「眠い・眠くなる」と回答した割合

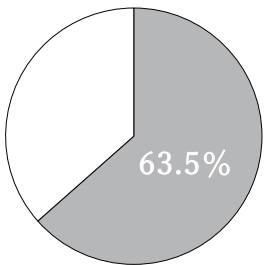


図4 「暗記科目」と回答した割合

以下に、「暗記科目」に関する実際の回答文をいくつか示す。

- ・理解というより暗記。
- ・暗記すればよい。
- ・暗記して、小テストのくり返し。
- ・暗記するもので、苦手なイメージ。
- ・人物名や出来事を覚えればよい。
- ・社会は暗記が多いイメージで、苦手だった。
- ・一問一答形式で覚えるもの。

- ・教科書を覚えているだけなので、深い理解はしていない。
- ・語呂合わせなどで重要な人物や物事を覚えて、テストに臨む。
- ・暗記だから寝れる授業。普段寝たり話を聞いてなくても点数取れる。
- ・暗記勝負。

今回のアンケート結果から、社会科は依然として「暗記科目」とのイメージが強く、いまだに「知識偏重」教科として認識されていることが分かった。社会科が「知識偏重」の授業をしているため、「主体的・対話的で深い学び」が十分でないことをうかがわせる回答もいくつかあったので以下に示す。

- ・他の生徒とのコミュニケーションが全くない。アクティブラーニングとは程遠いイメージ。
- ・グループ活動が少ない。
- ・グループワークがあんまりない。
- ・高校では「詰め込み」の傾向がより顕著になり、話し合い活動はしないような印象。
- ・教科書通りに進み、個人やグループでの活動があまりなかった。
- ・授業は聞くか書くか→話し合い活動が少ない。
- ・先生が1コマずっと話しており、特にグループワークもなく、一言も話さない授業ですごく眠かったです。
- ・あまりグループワークがない。
- ・先生が説明する時間が長くて、生徒が発言したり考える時間が少ない。

「対話的な学び」の時間が十分に取られていない背景の一つと考えられるのが、社会科の学習範囲の広さ(分野の多さ)である。回答の中にもそれがうかがえる文がいくつかあったので以下に示す。

- ・過去は「氷河期」から、今は「現代」まで、壮大な範囲を学習する科目。
- ・分野が多い。
- ・歴史は現代まで授業が進んだことはない。
- ・(歴史) とにかくスピードが速かった。
- ・教科書が分厚いイメージ。
- ・広い範囲。
- ・学ぶ範囲が広くて、授業がギリギリになってしまっていたり、オーバーしてしまうことがあったと思う。
- ・範囲が広いので、なかなか教科書の分野全部やりにくいと思う。

限られた時数で広い学習範囲の授業を行わなければならないために、教師の説明時間が長くなる傾向にあることをうかがわせる回答もいくつかあったので、以下に示す。

- ・先生がただひたすらしゃべってる。
- ・座学が多く、先生が一方向的に話すことが多い。
- ・1時間ひたすら説明だけしてくる授業。
- ・先生がずっと話しているのを聞くだけ。
- ・一方向的に話を聞かされる。
- ・教師が一人で盛り上がっている授業。
- ・教科書と資料をひたすら解説。
- ・教師の一方向的な説明→あまり頭に入らないので、テスト期間にほぼ独学状態。
- ・教師の一方向的なインプット。ずっと書いて、話を聞いているだけ。
- ・先生が一方向的に教える。
- ・先生が話している時間が長く、眠くなる。

教育課程を通して育成すべき資質・能力の一つに「学びに向かう力・人間性等」があり、現行学習指導要領・旧学習指導要領ともに「主体的に学習に取り組む態度」を養うことも求められているが、「主体的に学習に取り組む態度」を養うためには、創意工夫のある授業を展開していく必要がある。しかしながら、

機械的作業に終始し、生徒の学習意欲を十分に引き上げられていない授業が少なくないことをうかがわせる回答がいくつかあったので以下に示す。

- ・楽しくなかった授業としては、先生が教科書を読んで、ノート・プリントなどをうめさせていくような授業。
- ・教科書からキーワードをとって、プリントにまとめて終わり。
- ・ただひたすらノートに書き込みしているだけ。
- ・教科書の太字を線引いて、ノートの穴埋めをして発表するという流れ。
- ・プリントが配られ、教科書を見て自分でやる。そして、黒板で解答のくり返しの授業。
- ・引きつける授業がなくただ板書するだけ。
- ・教科書読み合わせ。教科書通りの授業。ノートのワークの穴うめ。
- ・ただ教科書を読んで、ノートにまとめる授業は、ただの作業に過ぎない。面白くない。
- ・ひたすら穴埋めで、つまらない。
- ・プリントの穴埋めばかりで部分的にしか覚えてない。
- ・授業が淡々となりやすい(教科書読み上げ、ワークシートを解く)。
- ・ノートに板書うつす。又はプリントに教科書みながら取り組む→先生いなくてもできる。

社会科に対するネガティブなイメージが少なくなかったが、ポジティブなイメージも挙がっており、社会科の授業改善の参考ともなる回答もあったため以下に示す。

- ・楽しかった授業は、発問などあって、生徒とのキャッチボールができていた授業。
- ・大人になっても使える知識が他教科よりも多い。知ってて損なし。

- ・昔（歴史）→現在（公民や地理）→未来を学べる。
- ・身近なもの、社会に出る上で必要な知識。
- ・身近で考えやすい。
- ・意味が分かると楽しいです。
- ・将来的に社会に出ていくうえで大切。
- ・大人になって仕事をする上で知っておかないといけない知識を教えてくれる大切な教科。
- ・社会の出来事（身近なニュース）などから広げてくれる先生の授業は興味が湧いた。
- ・様々な視点から日本や世界の事を学ぶことが出来る素晴らしい教科。
- ・社会で役立つ知識が学べる印象。
- ・この年齢になってから教育実習とかで公民や地理の授業のおもしろさを知った。
- ・楽しい（習ったことがつながったとき）。
- ・社会（世の中）について学ぶ科目だなというイメージ。
- ・自分達が生活する上での身近な教科。生活と密接する教科。
- ・地理的環境があり、それに合わせた歴史があり、公民へとつながっている、全てがつながっている教科。
- ・世界の事や日本の歴史などもあり、現在の状況との比較ができるし、これからの事や今後どうなるのかなどの楽しみといった勉強ができる科目。
- ・生活するうえで必要となる知識。
- ・色々な国の特性を知れるのが楽しい(地理)。
- ・一度興味を持つと面白い。点と点が線になった時面白い。
- ・世界の色々なことが学べる（地理）。現在の生活と関係している。
- ・視野が広がる科目。
- ・生きていく上で必要な情報が多い。
- ・ビデオなどの資料映像があると興味がわく。

社会科は社会に出てから役に立つ教科との回答がいくつかあったが、社会人（国家及び社会の形成者）として役立つ重要な教科・科

目（実際、「学ぶ内容が大人になってから（数年後）しか使わない」との回答があった）であることを教師が認識し、重要性の認識が高くない中学生・高校生に対して「わかる・楽しい授業」（沖縄県教育委員会、2016）を展開する必要がある。それによって学習意欲が向上し、「学びに向かう力・人間性等」を育成できると考えられる。さらに、「思考力・判断力・表現力」を養う学習活動を十分に取り入れることで、社会科に対するマイナスイメージを払拭することにつながると思われる。そのためには、教師の授業力が大きく影響するが、教師の授業力によって社会科に対するイメージが大きく変わることをうかがわせる回答があったので以下に示す。

- ・受けもつ先生によって好きか嫌いかが顕著で、成績にも表れる。
- ・高校の地理の授業で、これまであまり好きではなかったが、話やプリントが分かりやすくまとめられていたし、関連情報などを色々と教えてくれる先生に出会い地理は好きになった。
- ・社会のエキスパートのような先生の授業は、楽しかったイメージがある。
- ・教師の話し方や工夫、面白さで、授業への集中力が変わった。
- ・先生によって楽しさが違う。
- ・地理の先生がとてもおもしろく、授業への意欲が湧いた。
- ・先生によって、理解できる差がある。
- ・教える教師によって、おもしろい授業になったり、全然興味が持てなくなったりと差がすごいイメージ（生徒にどう体感的に伝えられるか）。
- ・教師によって、楽しく受けられるか否かが分かれる。
- ・先生によって、面白かったり、面白くなかったりする。
- ・印象的だった授業は「地理」です。高校の時の地理の先生は、教科書を元に単元

別でレジュメがあり、教科書を開くことがなかった。また、毎講義、動画の視聴があり、その動画もわかりやすく面白いものだったので楽しい授業でした。

- ・教える先生によって楽しい、楽しくないがちがっていた。

### 3 おわりに

社会科、保健体育科、英語科のいずれかの教員免許取得希望者を対象に、「社会科」の教科や授業のイメージ調査を行った。その結果、社会科は「暗記科目」とのイメージが依然として強い教科であることが分かった。社会科は、学習範囲の広い教科の一つであるが、創意工夫によって「思考力・判断力・表現力」を養うための学習活動を十分に取り入れていくことで「暗記科目」とのマイナスイメージを払拭することができると考えられる。そのためには、教師が今以上に授業実践力を向上させ、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」をバランスよく育成する授業展開をしていく必要があると思われる。学生らが受けてきた授業スタイルは、学生自身が授業を行う際の授業計画や授業スタイルに少なからず影響するため、今回の調査結果を今後の授業実践指導に活かし、創意工夫による新たな授業づくりの意識を高めていきたい。

#### <謝辞>

「社会科のイメージ」のアンケート調査を実施するにあたり、115名の学生に協力いただいた。ここに謝意を表します。

#### <参考文献>

沖縄県教育委員会 (2016) 『沖縄県教育委員会の求める教員像について』 <https://www.pref.okinawa.jp/edu/jinji/press/documents/motomeru-kyouinzou.pdf> (2023年1月9日閲覧)

中央教育審議会 (2016) 『幼稚園、小学

校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審第197号)』 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf) (2023年1月9日閲覧)

文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領(平成29年告示)』, 東山書房。

文部科学省 (2019) 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』, 東山書房。

文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 総則編』 [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_001.pdf) (2023年1月9日閲覧)

文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 総則編』, 東山書房。

文部科学省 (2019) 『高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説 総則編』, 東洋館出版社。

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総則編(平成20年6月)』 [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931_001.pdf) (2023年1月9日閲覧)

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成20年7月)』 [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_001.pdf) (2023年1月9日閲覧)

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 総則編(平成21年7月)』 [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2010/12/28/1282000\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/28/1282000_01.pdf) (2023年1月9日閲覧)